

息子と銭湯へ行ってセックスした未亡人の私

私は一人息子を持つ未亡人の母です。

息子は学校へ通い、私は仕事をしながら家事も両立して女手一つで家を支えています。

決して裕福ではない暮らしは時に大変でもありますが、大好きな息子とともに生活する日々は幸せで、つらさなどは特に感じたことはありません。

特に、”学校でこんなことがあったんだ”などと笑顔を交えてうれしそうに話してくれる息子と会話していると、仕事の疲れも家事の疲れもどこか遠くへ飛んでいきそうな思いになります。夫の4年前の死は私にとって非常につらく、息子にとっても当たり前にあった存在が急になくなってしまうという喪失感は言葉に出来ないほどつらくものであったようでした。そしてその苦難を乗り越えた現在のつつまじやかでも幸せな二人の日々です。

そんな私たちの日々に大きな衝撃が生じ、関係性にも深いひびが入るような出来事がありました。言葉にするのも恐ろしいほど。道徳モラルというものを大きく逸脱し、決してあってはいけない罪深いことを私と息子は犯してしまったのです。そのひびは修復のしようがなく、放っておくと大きな割れ目となり私たちの関係性を真っ二つにして元の形には戻れなくするものでした。そうしてこともあろうか、そのひびを作ってしまったのは私たち自身の意思に他ならないのです。自分たちで望んで全ての形を変えてしまった。それが事実なのです。

モラルを破壊する罪深い行為は、それを上回る二人の性への情愛でした。

きっかけは些細な事。

近くに新しく出来た銭湯へ二人で行ってみようという話になったことです。

「へえ、そんないいところなの……？」

「うん。友人がね、そう言ってたんだ」

「そんな格安なら行ってみようかしら。ねえ明日でも行ってみない？二人で」

いつもの食卓での会話。会話の内容は息子が友人たちに聞いたという街中に出来た銭湯の内容でした。

「うん！行く行く！！僕もどんなところかスゲー気になってたんだ」

「ふふふ、ユウスケ、浮かれちゃって」

二人で外出するなんてそうあるものではありません。私たちの暮らしはいつも金銭的に余裕がなく、生活するのに精いっぱい。もちろどこかへ連れて行ってあげたいという気持ちはあったのですが。

「じゃあ明日学校から帰ってからだね」

「うん、電車で行きましょう！！」

料金が格安ということもあって、たまになら、と私はその場の会話で行くことを決めてしまいました。

「いつもの景色とは全然違って楽しいよ、ママ」

「そんなに遠くじゃないけどね」

早速次の日がやってきました。

学校へは電車を通う息子ですが、移動中、普段とは別の風景だったため子供のようにはしゃぎます。

「こんなところに工場が出来たんだね」

「ほんとだ。へえ・・・知らなかった。大きい工場ね」

移動も外出の一環。私たちは思ったよりも空いていた各駅停車の電車に乗り楽しんでいました。

最寄り駅へ着くと、そこからは数分歩けば着きます。私たちは改札を出て、自販機で500ミリリットルのペットボトルのお茶を購入して向かいました。

「良さそうなおとこじゃない」

「ほんとだね、ママ。やっぱり出来たところだけあって綺麗だし」

よくある民家の間の銭湯などとはまるで違って、旅行先の温泉宿のような外観。私たちの胸は弾んでいました。

銭湯の中へ入り、さっそく入ろうということで私たちはそれぞれ男湯と女湯の暖簾をくぐりました。

.....。

入るなりすぐに私の目に飛び込んできたのは少し驚く光景でした。

” こんな大きな男の子が.....”

もう随分と成長し、本当なら普通に考えて男風呂へ入るべきと思われるくらいの男の子が、やけに若い母親に連れられ女湯の脱衣所で裸になっていたのです。

私は、自分の中に長らく忘れていたものがふつふつと湧き上がるのを感じました。

.....。

結局、新しい銭湯へ入浴を楽しみに来たはずが、恥ずかしい話ですが頭の中はそれ以降その男の子の裸ばかり。

” 私もダメだわ。こんなことばかり.....相当欲求不満なのかも.....”

“欲求不満”

湧き上がる妙な気持ちの正体を、自分の中でリアルな言葉にしてしまった瞬間です。  
4年前の夫の不慮の死から、私は性的に満たされてこなかった。それが欲求不満となり、  
あんな小さな男の子の裸ですら見ただけで私の中から離れないようになってしまった。

私は首を振りました。

こんなことではいけないんだ・・・・・・・・。

女湯を出ると息子はもう待合所で椅子に座って待っていました。息子の手には先ほど買ったペットボトル。息子は立ち上がりました。

「母さん、僕もさっき上がったばかりだよ」

「同じだったのね。よかった・・・・・・・・」

無意識に私は息子の股間に目が伸びてしまいました。

幸か不幸か・・・・・・・・事は重なるものです。

息子はいつもそんな姿になったことがないのに、ズボンを穿かずにブリーフ姿で・・・・・・・・  
しかも勃起しているのが分かったのです。

「!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「・・・・・・・・ぱ、パンツ姿であなた・・・・・・・・ズボン穿かなきゃダメじゃないっ・・・・・・・・!!!」

「いや・・・・・・・・あんまり開放的だからさ・・・・・・・・」

体験版はここまでです。続きは製品をご購入下さい。